

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第480号 平成25年1月25日

接岸初日

連日寒い日が続いていますが、網走地方気象台は1月17日、網走市でオホーツク海の流氷が接岸して船舶が航行できなくなる「接岸初日」を観測したと発表しました。平年より16日早く、昨年より31日早い事になります。

網走市では陸上から初めて肉眼で確認できる「流氷初日」を同月12日に観測していました。気象台によると、寒気の影響で流氷が大きくなったことに加え、冬型の気圧配置で北風が吹き、沖合の流氷が早く南下したのだそうです。

勿論、流氷が接岸したといっても、そのまま居座る訳ではなく、風向きによっては一晩のうちに流氷は沖合に逃げて行ってしまいます。

気象予報士の菅井貴子さんによると、日本での流氷初日は、

1960年代は1月16日

2000年代は1月16日

となっており、その後1月下旬から2月上旬頃にかけて接岸し、この接岸した初日を先程紹介したように「接岸初日」といい、

1960年代は1月24日

2000年代は2月1日

となっているそうです（同氏著「なるほど！北海道のお天気」から）。

因みに、沿岸から見渡せる海域に占める流氷の割合が5割以下となる「海明け」は、

1960年代は3月21日

2000年代は3月14日

更に、沿岸から流氷が見られなくなった「流氷終日」は、

1960年代は4月20日

2000年代は4月4日

となっているそうですから、流氷が北海道に接岸している期間が随分と短くなっている事が分かります。

「流氷は海のカナリア」と呼ばれているそうですが、流氷はカナリアのように環境変化に敏感に反応しているようです。

ところで、日本海では流氷は出来ないのに、何故オホーツクの海では流氷が出来

るのかというと、オホーツク海には遠くアムール川から大量の水が流れ込んでおり、この為海水の塩分濃度が低くなり流氷が出来易いという訳です。つまり、流氷は海が凍って出来るように思うかもしれませんが、凍っているのは水ですから、流氷を舐めても塩辛くはありません。私はまだ試した事はありませんが、流氷でオンザロックというのは、最高でしょうね。

北海道に住んでいる者としては、流氷と聞くと「いかにも寒そう」という印象が強いのですが、これが観光資源として有望で、東南アジアからもわざわざ寒いのに流氷を見に来る方が沢山いらっしゃいます。これからが網走の「流氷観光船」や紋別の「ガリンコ号」の出番になりますが、是非、観光客の皆さんにはホンモノの流氷を楽しんでもらいたいものです。

また、流氷は観光資源だけではなくありません。流氷は沢山のプランクトンをもたらしてくれますので、流氷が来る海は豊かな漁場でもあるのです。更に、流氷は海底を削りますので海底の大掃除の役目も果たしています。

このように、オホーツクの海を豊かにし、人々に恩恵をもたらしてくれる流氷に、私達はもう少し感謝すべきかも知れません。もっとも、寒さに弱い私としては、わざわざこの厳寒期に流氷を見に行く気分になれませんけどね。(塾頭：吉田 洋一)